

近森オルソリハビリテーション病院 作業療法科

科長 仲川 健

はじめに

2025 年は、6 名体制で運用を開始。今年はグループ内の施設間異動を 1 名実施。4 月には新入職員を 1 名迎え、育児休業復帰者・育児休業者各 1 名を含め 12 月末の最終人員は 8 名体制となった。また、近年外来の需要が多いことより 1 日あたりの予約枠を増やすことで受け入れ体制を整えた。

実績

2025 年 1 月～12 月の年間総単位数は、19,703 単位。月別平均単位数は、1,641 単位であった。(図 1) 入院における OT 処方延べ件数は、100 件。前年と比べ 4 件減少となり、月平均としては 8.3 件の処方数であった。外来リハビリ実施者延べ件数は、3,244 件 6,668 単位。月別平均単位数は、555 単位。前年と比べ件数は 104 件、単位数は 237 単位の増加。入院期間の短縮により外来への早期移行傾向がみられた。(図 2)

年代別内訳では、80 代が 35 例。70 代が 31 例、60・90 代が各 6 例。75 歳以上の後期高齢者が 70 名。(85 歳以上の超高齢者が 19 名)と 75 歳以上は、処方延べ件数の約 7 割以上を占めていた。(図 3)

地域包括ケア病棟におけるリハビリ実施者数は、延べ 3,614 名。単位数は 9,366 単位。(図 4) 患者一人あたりの月平均単位数（作業療法のみ）では、2.4 単位であった。

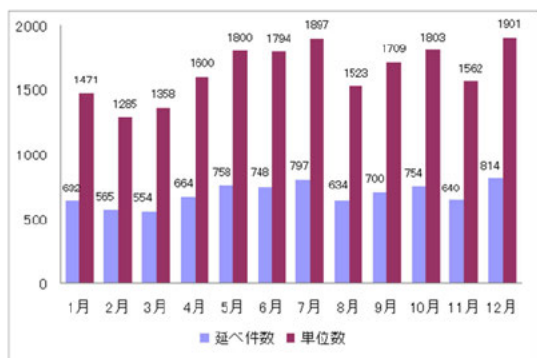
疾患別リハビリでは、運動器リハビリが 85%、脳血管リハビリが 8%、廃用症候群が 7%。(図 5)

処方内訳は、上腕骨近位端骨折、腱板損傷、橈骨遠位端骨折等の上肢疾患が 61%。次に腰椎圧迫骨折や脊椎・骨盤骨折等が 15%。大腿骨頸部骨折・転子部骨折等の下肢疾患が 9%であった。(図 6)

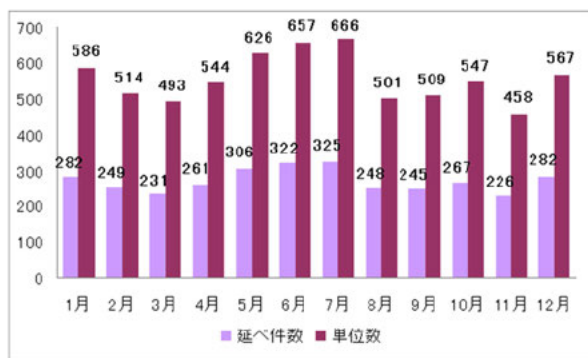
2026 年方針

2026 年は地域包括ケア病棟の中での OT の関わりを改めて明確にし、様々な疾患に対応できるよう質の向上・患者サービスの向上を目指しスタッフの育成を実施していく。

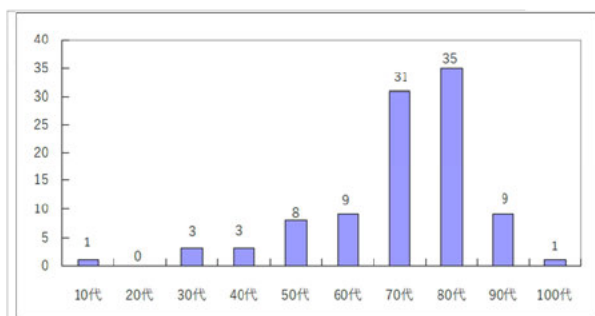
また、在院日数の短縮への取り組みの受け皿として、外来リハビリの需要は継続して高く、積極的なリハビリの提供や人員配置にも取り組んでいく。



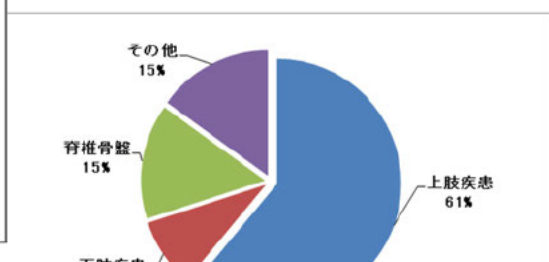
(図1) 月別実施単位数



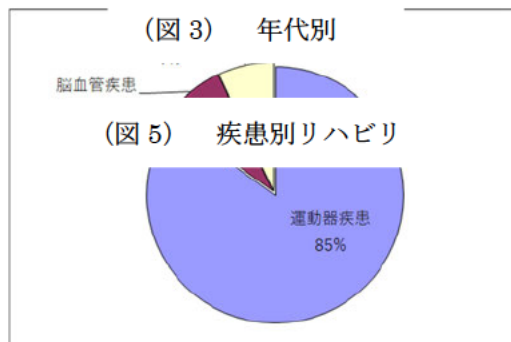
(図2) 外来実施者数と単位数



(図3) 年代別



(図4) 地域包括ケア病棟実施者数と単位数



(図5) 疾患別リハビリ

(図6) 処方内訳

学術発表

演題	発表者	学会名	開催
既往に脳性麻痺がある右上腕骨近位端骨折患者に対して安静度・後療法に準じた退院にむけた関わり	西川 文乃	第18回高知県作業療法学会	2月1日～2日 高知